

研究員 の眼

ビンテージ・ソサエティとは —長寿時代の新たな産業振興政策への期待

生活研究部 主任研究員 前田 展弘
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)
(03)3512-1815 maeda@nli-research.co.jp

“ビンテージ・ソサエティ”とは、おそらくほとんどの人が初めて聞いた言葉になるであろう。“ビンテージ (Vintage)”とはもともとワインの製造工程を表す言葉であるが、今日では「年代もの。ただ古いだけでなく、年月を経て程良く味わいがでたもの¹⁾」という意味でよく使われる。ビンテージ・ワイン、ビンテージ・ファッションなどがそうだ。では、ビンテージ・ソサエティとは何か、これは“超高齢社会”を言い換える形で登場した「造語」であり、経済産業省がその発信元である。経済産業省の産業構造審議会内に設置された「2020 未来開拓部会²⁾」が掲げるプロジェクトの名称の中で使われている。当部会は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向けて、持続的に成長する我が国の未来像を検討することを目的に設置され、現在、2020年に向けた産業振興の柱として9つのプロジェクト(テーマ)³⁾を掲げている。その一つに、「活力あふれる“ビンテージ・ソサエティ”」がある。なお、筆者は当プロジェクトに紐づく「ビンテージ・ソサエティの実現に向けた取組みに関わる研究会(及び調査研究事業)」に携わっている。

当初の草案段階では「超高齢社会」の文言が使用されていたが、「ビンテージ・ソサエティ」と言い換えた背景には2020年の東京オリンピック・パラリンピックを好機に、世界の注目が日本に集まるとき、「高齢者等にやさしい、活力あふれる超高齢社会づくりに成功した日本の姿と、希望ある未来の社会像を世界に提示したい」という経済産業省の思いがある。プロジェクトでは「未来へのレガシー」として、「日本の高齢者等が生き生きと暮らし、豊富な人生経験・知識と潤沢な知恵・感性・文化を若者世代に共有・継承できている社会」を遺していくことを目標としている。こうした意味合いを表すために敢えて言い換えたわけである。とかくネガティブなことがイメージされやすい高齢社会を極めてポジティブに捉え表現しているところは、筆者の専攻するジェロントロジーとも共通するところであり、前向きに評価したい。

¹⁾ 朝日新聞社「知恵蔵2015」の解説より

²⁾ 2015年4月に設置。詳細については、経済産業省HPを参照のこと(http://www.meti.go.jp/committee/gizi_1/34.html)


³⁾ 2020未来開拓部会が掲げる9つのテーマ(プロジェクト):①モビリティ、②スマートコミュニティ、③ストレスフリー、④サイバーセキュリティ、⑤活力あふれるビンテージ・ソサエティ、⑥イノベーション、⑦インベストメント、⑧ひとづくり・地方創生、⑨スポーツ・文化

こうした表現のユニークさに加え、もう一つ前向きに評価したいことがある。それはビンテージ・ソサエティの実現に向けた産業振興（方向性）の中身である。あくまで私見にはなるが、これまでの高齢者市場に対する産業振興の政策は、医療や介護関連、あるいはロボット開発等、特定のテーマ・領域において施策を講じる「部分的」かつ「供給者視点」に立つ傾向にあったが、ビンテージ・ソサエティの実現に向けた政策方向は、「総合的」かつ「生活者視点」である。人生90-100年という長寿時代にあるということを強く意識するなかで、より安心して豊かな高齢期をおくれるように、例えば、セカンドライフの「キャリアパス」をつなぐ事業として何ができるか、あるいは高齢者の社会参加を促しながら企業も参画できる事業としてどのようなことがあるか、こうしたテーマがビンテージ・ソサエティの構想に含まれている。「リタイア後も社会で活躍したい」「自分の経験等を社会に継承したい」等、国民のニーズとしては顕在化しながらも事業化しにくいテーマはいくつかあるが、こうした未開の領域を開拓しようとする姿勢が見られる。高齢者の福利と言えば、福祉を中心とした地域行政に依存してきた印象があるが、このように民間・市場をリードする経済産業省が理想の超高齢社会及び市場の創造に打って出られたことは画期的であり、社会として望ましい方向に進んだものと受け止めている。

具体的な政策立案は今後の検討次第ではあるが、ビンテージ・ソサエティが描く未来像は、一人ひとりの将来に、また企業にとっては今後の事業展開にも影響してくる可能性がある。2020年に「高齢者等にやさしい、活力あふれる超高齢社会づくりに成功した日本の姿」を世界に見せられるように、ビンテージ・ソサエティの構想が具体化することを大いに期待したい。

<経済産業省/2020 未来開拓部会 09Projects (抜粋) >

Around 2020



活力あふれるビンテージ・ソサエティ

- ▶ ビンテージ・ソサエティに向けて、高齢者等の生活の質が向上し、社会参加が進むとともに、それを支える新産業・市場を創出する、社会的システムを構築する。
- ▶ ユニバーサルデザインを踏まえた製品・サービス・システムを、今後高齢化が進展する諸外国向けに海外展開する。

未来へのレガシー 高齢者等が生き生きと暮らし、豊富な人生経験・知識と潤沢な知恵・感性・文化を若者世代に共有・継承できる社会モデルの創出・実現

2015	今後	2020
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 急速な高齢化の進展により、社会保障費の増加による財政圧迫等の問題が顕在化。早急な対応が必要。 ▶ 旧来の高齢者イメージは高齢から高齢。元気でやる気があり、社会参加意欲の高い高齢者が増加。 ▶ 日本再興戦略では、「健康寿命の延伸」が重要な柱として位置づけられており、課題解決型福祉利用員の活用促進や、公的保険外サービスの創出・育成等を通じて、「国民の健康増進」、「医療費の適正化」、「新産業の創出」を目指す。 	<p>今後</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国内外の将来見通し、特にアジア展開を見越した新産業の創出 ▶ ビンテージ・ソサエティに対応した「利活用の国内外の先進ビジネスモデルの構築 ▶ ビンテージ・ソサエティに向けたセカンドキャリア作りの支援モデルの構築 ▶ 上記を具体的に検討すべく、10/28(水)に「ビンテージ・ソサエティの実現に向けた取組に係る研究会」(第1回)を開催。来年2月めどにとりまとめ予定。(座長: 東京大学 秋山特任教授) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を好機とし、高齢者等にやさしい、活力あふれる高齢化社会づくりに成功した日本の姿と、希望ある未来の社会像を世界に提示。 ▶ 高齢者の健康寿命の延伸による医療費抑制。 ▶ 新産業の活性化、海外展開。

資料: 経済産業省資料(2015.10.30)より引用